

富士鋳油

経営資源をガス体に集中

08年キックオフ・ミーティング

富士鋳油(園木章夫社長)は5日、東京・中央区のロイヤルパークホテルで傘下特約店・富士鋳



販売施策を述べる園木社長

油グループの関係者を集めて「2008年キックオフ・ミーティング」を開催した。

同社ではグループの行動スローガンとして「チアーズスタイル」を掲げているが、2008年は安全に対する社会的要請が一層高まっていることを認識。「チアーズスタイル」でお客様の安心を実現することを基本方針とし、営業施策推進のキーワードとして「安心」「安全」「防災」「復旧」「環境」「快適」

「防犯」「開発」を掲げ、顧客の立場で考え顧客の期待以上の満足を実現することをめざす。

ミーティングの冒頭、園木社長が2008年の販売施策について説明を行った。その中で2007年の象徴する色を「赤と白」とし、国内外の1年の出来事を振り返った。その後、同グループの今年の重大ニュース

としてSS事業からの撤退をあげ、経営資源をガス体エネルギーに集中することを強調。自動車用燃料としてLPガス、CNGを積極的に推進し、LPG車に加えCNG車導入にも前向きに取り組んでいく。

このほか、安心面では顧客ごとに問題解決するためのチアーズ法律相談室の開設や、教育・研修の充実、AEDの設置推進、安全面では安全確保の徹底が事業活動の前提になるとし、同社保安技術グループを保安推進室に改称し、保安技術と安全意識の向上を図っていく。防災面では

充塲所を防災の拠点としてLPガス、水の確保に努め、災害復旧支援体制を地元消防や自治体と協力していく。環境面では太陽光発電システムを販売し、快適面ではリフォーム事業を中心とした新しい生活サービスの事業化、防犯面では独立型セキュリティシステムの提供に着手する。

最後に園木社長は「お客様の期待以上の満足を実現するため、社員一丸となってチアーズスタイルを進めていきたい」と述べた。その後、ピエール・ボードリ氏による「青い眼がみた日本」と題する講演会もあった。

期待以上の満足実現へ

快適・環境・サービスに対応

ガス事業を多角的に展開

08キックオフ・ミーティング

富士鋳油(東京、園木章夫社長)は5日、東京・中央区のロイヤルパークホテルで、恒例の富士鋳油グループ「2008年キックオフ・ミーティン

グを開催した。園木社長は08年営業施策と事業の考え方について、SS事業から撤退してガス

事業部門に経営資源を集中させ、太陽光発電システムの販売を開始するなど、ガス事業を多角的に展開する方針を示した。

園木社長あいさつ要旨

このたび、昭和39年以来43年間続けてきたSS事業から撤退し、ガス事業に特化することとした。環境に良いエネルギーであるガスの販売に力を入れる。オートガス3カ所、CNGエコステーションも8カ所運営している。当社はクリーンエネルギーであるLP

G車、CNG車を積極的に導入している。今年10月に、シエルソーラー・宮崎プラントの完成を受け、太陽光発電システムの販売も開始した。また、物流会社である富士鋳油運輸の社名をフラインゲンナシと改称、グループだけでなく他系列との物流連携を深めることにし

ている。当社は安全衛生活動を通じ、防災訓練や非常時の備蓄を充塲場で行っている。防火防犯についても、社会的関心の高まりに対応し、ホームセキュリティ事業に進出した。新築だけでなく、既築も義務化期限が迫っている火災報知器の取り付けと

業の拡充を進めている。LPガス機器や住宅設備機器の販売だけでなく、リモテル(リフォーム事業)を開始し、信頼される工事・営業のため、研修会を実施している。今後も顧客の住まいと暮らしの快適さを実現するため、新しい生活事業化のサービスを進めていく。



連動し、割安な価格で、防犯を含めた住まいと暮らしの安全を届けることにしている。また、救命救命用AEDを設置し、地域社会とのつながりを深めていく。

快適提案では、LPガス事業以外の将来の事業の柱をつくる取り組みとして、ガス以外の提案営業の拡充を進めている。